研究テーマのエピソードについて

今年度の研究テーマは「エピソードを通した児童生徒一人一人の主体的な学びの理解」として研究を進めています。先日、この研究について学校運営協議会にて報告をしたところ、運営委員の皆さんが大変に感心をしてくれました。「子どもの行動で答えのない点を先生方が話し合っているのに驚いた」「家庭でも先生方と共有をしてみたい」など、これまでの研究とはまた違った視点でのご意見を頂きました。

今回の研究では子どもの行動の裏には意味があるということを重視しています。同じ「笑う」「泣く」でもその行動の裏にある意味はそれぞれ違っています。子どもが「うれしくて」笑っているのか？「楽しくて」笑っているのか？また「愛想笑い」なのか？「笑う」という表現しかできないのか？そんな「笑う」という表出に見える子どもの行動の意味をその背景から読み取る。そんなことを大切にしながら、今回の研究テーマに「エピソード」を入れてみました。

今回の研究テーマから考えられることは非認知なものをどのように評価していくか？ということになると思いますが、評価するという視点ではなく、その行動の意味について皆で考え、対話をするということを大切にしていきたいと思います。皆で対話をする中で、子どもの行動に意味を見いだし（見つけだし)、共通解を見つけることがこの研究のテーマの一つでもあります。そして、それを発展していき、今年度変更をした重点目標の一つである、「子どもの価値を発信する」に繋げていければと思います。

我々教員はどうしても形のあるものに添って考える事が得意で、方向性の見えない定まらないものを考えるのは少し苦手でもあります。私も初任者の時に、先輩教員に「何か子ども達と関わる際の指標があれば教えてください」とお願いしたことがありました。先輩教員は「指標は子どもの中にあるから沢山体を使って遊んでください。そうすると見つかるかもね！はっはっはっ！」と教えてくれたことを今でもよく思い出します。大切なことは、子ども自身から出てくるものをしっかりと感じ取り、その行動に意味づけを行いながら、皆で「こんな意図があったのでは？」「あんな理由があったのでは？」「直前の言動でこんな発言をしていたのは関係があるのかな？」などと皆で話し合いを進めていく中で、共通解を探していく。そんなことが大切なのではないか？と感じています。子どもの事を語り合うことを大切にしながら、共通解を見つける楽しさをこの「エピソード」を通して見つけて行きたいと思います。